

■部会名：まちづくり部会

■部会長（有識者委員）：隼田 尚彦 委員

■市民委員：笹原 邦子 委員、佐藤 尚人 委員、瀬野 朋恵 委員、
名和 靖子 委員、深谷 亮一 委員、山崎 智行 委員

■概要

1 戦略テーマ：「駅を中心としたコンパクトシティ化」の提言内容の検討

隼田部会長：戦略テーマ提言『市民協働のまちづくり』について前回話し合ったので、次の戦略テーマ提言『駅を中心としたコンパクトシティ化』から議論を進め、最後に全般的な話をしたい。本日は、総まとめなので、皆さんから忌憚のないご意見をお聞きしたい。

はじめの「どんな状態にしたいのか」や「立案背景について」何か意見があるだろうか。

ー各委員 特になしー

隼田部会長：次に、「戦略テーマ実現への方策」へ移りたい。空白になっている部分があるが、何かご意見はあるだろうか。

○ 「江別駅周辺へのスーパーの誘致」とあるが、スーパーの誘致というよりも生活できる環境がほしいという内容であったと思う。また、野幌の「駅構内への店舗の誘致」はそのまま構わないが、「作品展示スペース」については、野幌駅に限らずどの駅にあっても良いと思う。

隼田部会長：作品展示スペースに関しては、「各駅に」と付けた方が良いか。

○ 各駅によって状況が異なるので、同じ形にはならないと思う。

隼田部会長：具体的な事業案ではないので、各駅に展示スペースを設けるべきということになれば、その後は個別の計画で具体化されると思う。「各駅に」を追加したい。また、スーパーについては、人が住みやすければ人が集まり、商業者も集まってくるという話であったが、何をもって「住みやすい」というのか、「住みやすい」という言葉だけでは弱いかもしれない。

○ 駅があつて移動しやすいから住みやすいのであって、駅の利便性を考えて周辺のまちづくりをしなければならぬと思う。江別駅前から国道12号線までをどうするか、さらには緑町の辺りまでをどのようなまちにするかを考える必要がある。駅の近くに住みたいという人もいれば、駅の近くに駐車場があれば電車を利用したいという人もいるので、駅を利用する人のニーズに合わせた整備をしなければならぬと思う。駅を利用する人口が増えることにより、商店ができてくると思う。

隼田部会長：そのようにするために短期のハードで何から手をつけるべきであろうか。

○ 野幌駅については具体的に開発が進んでいるので、今後のその整備状況を見ながら他

の駅前についても整備を考える必要があると思う。ただし、野幌駅周辺と同じものが必要というわけではない。短期でどうしたらよいかは、なかなか思い浮かばないところである。

隼田部会長：とても難しい話である。短期のハードの部分は、ビジョン以前に目前に迫っていることに対して、対処療法的なことでも何かしなければならないという意味で記載した。まちづくりはなかなか難しく、このような対処療法も行いながら、ビジョンをきちんと持って、理念に基づいた形に少しずつ修正を加えていきながら実施していくことになる。

○ 例えば、江別駅前の農協はなくなるかもしれないが、その中に入っている魚屋等のテナントは一緒になくなるわけではないと思うので、小さな店舗を含めて地域の生活にどう行政が協力できるかであると思う。買い物がしづらいから、他の地域と同じようなスーパーを持ってくれば良いということではなく、その地域や現状に合った商店などが存在すれば良いのであって、それを手助けすることがまず大事ではないか。同時に、中期的にその地区のまちの整備をどうしたらよいかを考える中で、どういった区画にスーパーを誘致するか、あるいは小型のスーパーを誘致するかということになると思う。短期的に、どうしようと思っても、意見は出てこないと思う。単純に箱物をつくるのではなく、今ある商店が今後どうしたいかを手助けできれば良いと思う。

隼田部会長：そうするとハードではなくなってしまう。いずれにしても明確な記述は無理であるので、「江別駅周辺の利便性の維持」ということをまずやらなければならないという記述にしたい。短期のソフトの部分に「ハード事業の誘致と併せて」と記載してあるので、「の誘致」という部分を外すことにしたい。

○ 具体的にするのであれば、江別駅に空いているスペースがあるのだから、そこを借りれば良いと思う。みらいビルの方は、とても行きづらいので、お店のことを考えたら江別駅にあった方が良い。そうすれば、当面の間、駅にも人が集まると思う。人が集まるのであれば小さなイベントを実施したり、少しずつ広がっていくと思う。何か新しいものをつくるのは難しいし、無駄なことのように思う。

隼田部会長：とりあえず、短期の部分では、ハードに「江別駅周辺の利便性の維持」を入れて、ソフトの「ハード事業の誘致と併せて」の「の誘致」部分を外すことにしたいがよろしいか。

—各委員了解—

○ 「各駅に作品展示スペースなどの整備」というのはハートづくりにも繋がると思う。漠然と作品を置いても通行人は見てくれないので、ハートの部分の土台づくりが必要ではないか。江別駅前の通りの街灯の部分に陶芸作品を置いてあるだけでなく、もっと人に見てもらえるようなアピールができないだろうか。

○ やきものまちというならば、やきもの市開催の時以外でも、いつでもやきものを見られるようにしなければならない。

隼田部会長：では、「日常的なイベントの実施」をハートづくりに入れるということでは

かがであろうか。

—各委員了解—

○ 駅周辺に皆が利用できる自転車、レンタサイクルのようなものを設置できないか。

隼田部会長：野幌駅前で今後サイクルシェアリングが検討されている。これは、戦略テーマ『交通ネットワークの再構築…』の中期に関する部分であると思う。サイクルシェアリングは会員登録が必要になると思うが、ちょっとした観光目的で1日券が使えるような「サイクルシェアリング（レンタサイクル的利用を含む）の拠点を駅につくる」というのを、戦略テーマ『交通ネットワークの再構築…』の中期のハードに入れようと思う。

戦略テーマ『駅を中心としたコンパクトシティ化』の中期に戻るが、何かご意見はあるだろうか。

○ 短期のハートづくりに入れた「作品展示スペースを活用して日常的なイベントの実施」というのを中期のハートづくりにも入れたら良いのではないか。

隼田部会長：短期のハートづくりと同様に、中期のハートづくりのところへも「作品展示スペースを活用して日常的なイベントの実施」を入れたいと思うがよろしいか。

—各委員了解—

○ 中期的にまちをつくるのであれば、融雪槽を駅周辺の開発に組み込んで整備したらお年寄りや障がい者に優しくて良いのではないか。

隼田部会長：ロードヒーティングに関して、エネルギー面ではどうか。

○ 江別駅前の温泉を活用できないか。

隼田部会長：江別周辺の温泉は、加熱しているという話を聞いているので、上手く利用できるかどうか。

⇒ 事務局：江別駅前のコミュニティセンターの前から中央通にかけて浄化センターの処理水を利用した流雪溝があるが、高齢化と空き地化で雪を入れる人がいなくなって、商店のある所以外はうまく活用されていない状況である。

○ 駅を中心としたまちづくりとしてやるのであれば、大々的に整備しなければならない。

○ 個別に事業を実施するのではなく、全体的に考えて実施してほしい。

隼田部会長：中期のハードにある「コンパクトシティに向けた駅周辺の活性化」のところで今の内容については触れていないので、民間にも協力してもらって「官民一体となって全体計画を策定した上で事業を実施」という文章を入れてはどうか。

—各委員了解—

○ 駅周辺を中心としたコンパクトシティの考え方であるが、角山や美原といった駅がない地域についてコンパクトシティの考え方とどのように関連性を持たせたら良いか。

○ 野幌駅にアクセスできるものがなければならない。どこにどういう風にアクセスさせると良いかを考えなければならない。それを次の戦略テーマの『交通ネットワークの再構築…』のところで検討したら良いと思う。

隼田部会長：戦略テーマ『交通ネットワークの再構築と様々な住環境需要への対応』の中

に「様々な住環境需要への対応」をあえて入れたのは、切っても切り離せない周辺地区の存在があるということである。すなわち、コンパクトシティ化というのが全面的に押し出されて、周辺部を切り捨ててしまうことになってしまうので、そうならないように3本柱のテーマの1つに周辺部への対応を入れたところである。バスのネットワーク等が上手くいくと生活できるであろうし、それでも生活が難しくなった時に、駅周辺に引っ越してくるかどうかは住民一人ひとりの選択になってくると思う。周辺部の魅力を残しつつ上手く整備していかないと、住み替え需要を上手く満たせなくなってしまうのでしっかりと考えなくてはならない。戦略テーマの『駅を中心としたコンパクトシティ化』の中のどの部分に文章で入れたら良いか。

○ 以前、交通網の話が出た時に、周辺部の人たちが駅の方へ出て来やすいようにバス路線を周辺部から駅に向かって充実させるということだったので、ハードづくりよりもソフトの部分にもっとしっかりと記載した方が良いのではないか。

隼田部会長：では、コンパクトシティ化というのは、駅を中心としているものであるが、駅がハブであることから、駅を周辺部ときちんと連結させるような計画をコンパクトシティの計画の中にきちんと書くという内容を文章で入れたい。

○ 戦略テーマの『交通ネットワークの再構築…』の中の短期のソフトで「地域交通の充実」という部分があり、この部分との関連を考えなければならない。

○ 戦略テーマの『交通ネットワークの再構築…』の「どんな状態にしたいのか」の部分に「コンパクトシティ化した中心部と農村部の調和を図る」という文章があるので、このところに上手く合わせられないか。

隼田部会長：現状では足りないから強化したいということなので、戦略テーマの『交通ネットワークの再構築…』の「どんな状態にしたいのか」の部分で「コンパクトシティ化した中心部と農村部の調和を図り、中心部と周辺地域との繋がりを強化」としたい。この「繋がり」には、公共交通のネットワークなどいろいろな意味の繋がりがあろうと思うし、ハードにもソフトにも、そしてハードづくりにも関係する話であると思う。また、短期のソフトに「地域交通の充実」という項目があり、この部分と関連するように、戦略テーマ『駅を中心としたコンパクトシティ化』の短期のハードで「各駅を公共交通のハブとして強化し、周辺地域との繋がりを維持する」という文章を入れたい。

○ 戦略テーマ『駅を中心としたコンパクトシティ化』の「どんな状態にしたいのか」というところにも「周辺地域との繋がりを維持する」という文章を入れて、その後ろで具体的な内容があるというようにしたら良いのではないか。

隼田部会長：では、「どのような状態にしたいのか」の最後の部分に、「一方で、周辺地域との繋がりの維持に配慮する。」を加えたい。

—各委員了解—

隼田部会長：長期の部分には意見がなく、空欄となっている。はじめはソフト中心であっ

たが、だんだんと中期からハードのことを考え、これを長期へ続けていき、高齢者施設や住宅の整備と徒歩でも買い物しやすいまちづくりを行うというようにまとめてある。10年間というスパンで考えると妥当かと思うが、長期の部分について皆さんのご意見を伺いたい。

○ 長期の空欄になっている部分は、短期・中期と繋がっている部分である。短期・中期から継続して繋がるような表現にしてはどうか。

隼田部会長：長期のソフトの部分に「短期・中期の取り組みをその時点の状況を見据えて継続的に行なう。」という文章を入れたい。

○ 関連して、中期のハートづくりの部分に、中心部と周辺部の交流の記述があると良いと思う。

隼田部会長：では、中期のハートづくりに「中心部と周辺部との交流事業を実施する」を追加したい。

また、中期のハードの「大麻駅」の部分に「高齢住民が札幌に流出しない町の整備など」と記載したが、以前に、車に乗れなくなったら駅の近くに住み替えてもらうと札幌市内に住むよりも意外に便利という話があった。住み替え需要に対する支援は、提言書のどこにも記載していない。モデル事業として住み替え対策を大麻地区で実施しているのであれば、ソフトの部分に入れても良いのではないかと思う。「高齢化に伴う市内の住み替え需要に対する支援（相談窓口など官民一体で）」という文章を入れたいと思う。

—各委員了解—

2 戦略テーマ：「交通ネットワークの再構築と様々な住環境需要への対応」の提言内容の検討とまとめ

隼田部会長：次に、戦略テーマ『交通ネットワークの再構築と様々な住環境需要への対応』の部分は、いろいろと思い入れがあると思うので、ご意見を伺いたい。

○ テーマにある「住環境需要」というのは、農業関係の需要も含んでいるということなのか。

隼田部会長：農業関係の需要も含んでいる。「どんな状態にしたいのか」の部分にある「利便性を求める者、自然環境を求める者などのニーズに対応」ということで、駅から遠くても構わないので車で通勤したい、というニーズにも対応するし、新規就農者等のニーズにも対応するという意味である。

○ 「どんな状態にしたいのか」の部分には入っているが、「立案背景」に記載しなくても良いものであろうか。「立案背景」の一番下の部分は、農業に関する記述のみとなっている。

隼田部会長：実際、周辺部で宅地開発が行われても住宅が埋まっていないという問題がある一方で、転入してくる人はいるという状況なので、どういう表現にしたら良いか迷った部分である。ここは、立案の背景なので、「自家用車中心でバスネ

ットワークが事実上、機能していない」という部分でカバーできると思う。高齢者の増加に伴ってバスの需要が高まるというのは、一番大きな部分であるが、周辺部に住む若い人の中には、一家に2、3台の車を持っていて公共交通を使わないという人もいる。

○ 「様々な住環境需要」に対して「交通ネットワーク」が対応するということなのか。

隼田部会長：「交通ネットワークの再構築」と「様々な住環境需要への対応」という文章をあえてこの順番で記述してある。「様々な住環境需要」へ対応するために「交通ネットワーク」を再構築するわけではなくて、「交通ネットワークの再構築」は、既に住んでいる人たちへの対応を考慮しており、新たに入ってくる人たちへの対応の意味をあまり含めていない。多少不便でもあえてそういう場所を選ぶという人たちは、自立して生活する可能性があるため、厳しい財政状況の中ですべてを充実させようとする絵に描いた餅になってしまう。委員の皆さんの中で異論があれば修正したい。江別市全域をカバーするとなると、ものすごく交通ネットワークを充実させなければならないので、現実的ではない。コンパクトシティ化で交通弱者の方をなるべく中心部へ集めるのだけれども、それでもあえて利便性よりも自然がほしいという人たちへは、ある程度の自立を求めるものである。ただし、周辺部については、ハートづくりの中で繋がりを持たせようとするものである。「公共交通ネットワーク」の「最適化を図る」としたので、なるべく多くの市民の利便性を図るのだが、周辺部の人たちには少し不便になるかもしれない。「公共交通ネットワークの再構築」で、新たに周辺部に流入してくる人たちの利便性がアップするという意味ではない。

—各委員了解—

隼田部会長：次に「戦略テーマ実現への方策」の部分であるが、短期のハートづくりの「保全イベント」は、以前の議論にあった大々的な整備ではなく、低コストでしかも市民参加で実施するものである。この部分で、皆さんから追加、修正等のご意見を伺いたい。

○ 具体的に、市民植樹がすぐにでもできそうなのでその文言を入れたいと思う。

隼田部会長：では、「保全イベント・市民植樹など」と具体的な文言を加えたい。その他についてはどうか。

○ 短期のソフトの部分に「無料バス」という記述があるが、市で実施するのは困難ではないか。

隼田部会長：これは、民間のいろいろな施設の送迎バスを活用するというで記載してある。「民間の無料送迎バス」という表現に変更したい。民間事業者との棲み分けは今後必要となるかもしれない。

○ 公共交通が、乗り換えや便数などでもっと使いやすくなれば、無料送迎バスでなくても利用できるようになる話である。JR北海道バスで、65歳以上であれば、1か月4,000円で乗り放題のパスがあるので、こういうことをもっと市でPRしたら良いのではない

か。

隼田部会長：公共交通のネットワークのつくり方にも一工夫必要ではないかと思う。何もない所に乗り換えの拠点があっても不便なので、寄り道するのにちょうど良い施設の所にバスの乗り換えのターミナルがあると、30～40分待つのがかえって便利であったりすることもある。

次に中期の部分を見ていきたいが、何かご意見はあるだろうか。

○ 先ほどのコンパクトシティの考え方で、駅をハブ化するという話があったので、こちらにも同様の文章を入れたら良いのではないかと思う。

隼田部会長：では、短期のソフト「地域交通の充実」の次の括弧内の先頭に、「各駅や利便性の高い施設を中心とした公共交通ネットワークの検討」という文章を入れることにしたい。

○ 短期と中期にそれぞれ「地域交通の充実」というのがあり、中期ではその括弧の中で「低料金の定額バス」という記述がある。短期のところで「民間の無料送迎バス」があるので、低額のバスの方に乗客が流れないのではないか。

隼田部会長：「無料送迎バス」は、それほど頻繁にあるものではないので、今あるものを活用しつつ、公共交通のネットワークをしっかりと充実させようという意味である。

○ 中期のハートづくりの部分に、様々な住環境需要へ対応しているというPRがあったら良いのではないか。

隼田部会長：では、中期のハートづくりに、「様々な住環境需要への取り組みのPR」を入れたいと思う。また、中期のこの部分に繋げるために、短期のハートづくりのところでこれに関連して「様々な住環境需要への取り組みに対するPRの方法を検討」という文章を入れてはどうか。

市民植樹なども継続して実施するものなので、「短期計画からの継続事業の実施」を併せて追加したい。

次に、長期の部分は何も入っていないが、どうであろうか。ソフトとハートづくりの部分は、先ほどと同様に「短期・中期の取り組みを見直しながら継続」という文章をそれぞれ入れたい。

—各委員了解—

隼田部会長：それでは、提言書のはじめに戻っていただいて、「まちづくり政策提言」から「戦略テーマ提言」の『市民協働のまちづくり』の部分にかけて何かご意見はないだろうか。

○ 「戦略テーマ提言」で加えた部分について、作品を展示する場所については野幌駅だけではなく各駅にしたので、これを「まちづくり政策提言」の中に加えなくて良いものであろうか。

隼田部会長：「まちづくり政策提言」では、マトリックスの意見が読み込めれば良いと思う。後の「戦略テーマ提言」の部分は、まちづくり部会として「まちづくり政

策提言」に基づいて議論し再整理した上で作成したので、「まちづくり政策提言」と「戦略テーマ提言」とで文書の表現が多少違っていても良いと思う。「まちづくり政策提言」はこのままの記述としたい。

戦略テーマ『市民協働のまちづくり』は前回長時間かけて議論しているが、今一度ご確認いただき、内容に問題がなければ部会の役割はこれで終了としたいが、いかがであろうか。

特になければ、次回全体会議があり、他の部会の委員と情報共有するという流れになっている。最後に各委員から一言ずつ感想をいただきたい。

- これまで何か月もかけて議論した内容が、今後実ると良い。
- 議論してきた内容の中で以前失敗した事例を市で把握していると思うので、その辺りをしっかり実施していただくようお願いしたい。
- 自分の生活の中でもこうなったら良いと思うことが、会議の中で結構出てきたので、市民としていろいろなことに参加してみたいと思った。
- 人にやってもらったことをこれまで受け入れて生活してきたが、自分でこうだったら良いと普段思っている、実際にこういう場で意見を出して具体化していくことが、行政の中でとても大変なことであると感じた。
- 豊幌に住んでいると、江別を生活の基盤にすることがあまりないので、いろいろな問題が今の江別にあることを知った。この会議に出たけれども抽選に漏れた人も身近にいるので、いろいろな思いがこの会議には詰まっていると思った。
- これだけ多くの内容のことをみんなで話し合ってきたが、責任のないことは言えないと思うし、それぞれの立場で背負って出席している部分があると思う。自分が背負ってきた部分は、この中ではあまり反映されないかもしれない。それぞれの方が意見を言ってまとまったことは、その都度見直して実行していくことになると思うが、市としても止める英断というものも持っていただきたいと思う。

隼田部会長：いろいろな思いや自分の住んでいる環境が絡んでくる問題であるが、まちづくりを考えることで一人ひとりが参加してネットワークをつなげていくことが、10年後、20年後の江別を良くしていく上でとても重要なことである。ぜひ、皆さんの間でも市民のネットワークを広げていただきたいし、今回いろいろな市民協働のまちづくりを絵に描いたが、これを絵に描いた餅にしないためにも、イベントを企画するなど、皆さんに率先して動いていただきたい。いろいろな形で協力し合えれば、市側としても頑張っていただけと思う。これで終わりではなく、これがはじまりとなる。

以上で、まちづくり部会を終了し、今後、各部会長で会議を実施し、次回全体会議を開催したい。

—各委員了解—